【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原の文化財
3	資料名	三津武獄（みちんだき）
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	与那原、文化財、琉球王朝時代、拝所、史跡、聞得大君、運玉森
6	説明	三津武獄（みちんだき）は、与那原町の運玉森（うんたまむい）の中腹に位置する史跡で、琉球王国の信仰において神女の最高位とされる聞得大君（きこえおおきみ）が葬られた場所と伝えられています。 琉球で長く干ばつが続いた際、国王が神に祈りを捧げたところ、「聞得大君を連れ戻しなさい」との啓示を受けたという伝承が残されています。 聞得大君は琉球の聖地・久高島（くだかじま）へ参拝の途上、逆風に遭って薩摩へ漂着していました。命は助かりましたが、そのとき妊娠していたため首里に戻ることを避け、与那原の御殿山（うどぅんやま）に庵を結び、生涯を終えたといわれています。このため三津武獄は、現在も子宝祈願の聖地として多くの人々の参拝を集めています。 三津武獄がある運玉森は、与那原町と西原町の境にある標高 158 メートルのなだらかな山で、琉球時代の伝説の義賊・運玉義留（うんたまぎるー）が身を隠した場所とも伝えられています。「むい」は沖縄の方言で「森（もり）」「高地」を意味します。
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	山里ゆい、平安山愛妃
9	時代・年	2025/02/16
１０	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町与那原 1313
１１	利用条件	表示 4.0 国際（CC BY 4.0）
１２	関連資料１	なし
１３	権利者	岐阜女子大学
１４	協力者	なし
１５	登録日	2025/02/16
１６	登録者	山里ゆい

１７	ファクトデータ	 circd086k-0014.jpg
１８	＊特色	聞得大君加那志(きこえおおきみかなし)のいい伝えについては、薩摩から夫と子どもと帰ってきた説、運玉森の庵で産んだ子どもが死産だった説、産んだ子どもがノロたちによって海に流された説など、さまざまな説がある。 **■与那原町の案内碑の記載** 　御殿山の聞得大君が死後葬られたといわれる所で、運玉森の中腹にある。子宝の神として尊ばれ、与原部落では子供が生まれると、三歳までは旧９月９ 日のクガニの御願に赤ウブクを供えた。これらのことから、出産後、海に流された我子を思って、海の見える運玉森中腹に葬るよう遺言したのではないかと思われる。以来、子供の守り神として、地域住民のみならず、他市町村からも子宝を望む人のお参りが絶えない。(与那原町の史跡(1995)より) **■民話「漂流の大君加那志（おおぎみがなし)」** 　昔、琉球の最高位の神女「聞得大君加那志（きこえおおぎみがなし)」が、多くの侍女を連れて久高島へ参詣する途中、強風により船が流され、遠く薩摩の国（現在の鹿児島）に漂着した。 　首里の王府をはじめ人々は消息を案じ、祈願を重ねたが、手がかりは得られなかった。その頃、琉球では干ばつにより不作と飢餓が続き、民は苦しんでいた。神女や神人たちは、その原因が大君加那志の漂流にあると口を揃えた。そのため、神からの啓示に従い、馬天祝女（ばてんのろ）を船長に女性たちを乗せた船が薩摩へ向かい、大君加那志を迎えに行く。航海は順調で、無事に再会を果たし、皆で琉球へ帰還した。 　しかし、大君加那志は首里へ戻ることを嫌がり、大里の与那原海岸に御殿を建てて暮らし、その地で亡くなった。遺骨は三津武嶽（みちんだき）に葬られ、人々から神として崇められた。また、馬天祝女が薩摩からの帰りに「多種好（たじく)」という魚を沖縄の海に放ち、それ以来この魚が生息するようになったという不思議な話も伝わっている。 　一説によると、大君加那志は薩摩で懐妊し、それを恥じて首里に戻らなかったともいわれている。その子が後に城間親雲上（ぐすくまぺーちん）とな

		った。 ■絵本の紹介 『よなばるまじくものがたり』（文・舩谷 香/絵・上田 真弓） 　発行所：よなばる商店株式会社　／　価格：本体 1,980 円（税込み）
１９	**＊活用支援**	なし
２０	**＊利用分野**	教育、地域学習、文化、歴史、生涯学習
２１	**＊改善結果**	なし
２２	**＊処理プロセス**	なし
２３	**＊関連資料２**	なし